



Yamano Holdings

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

2026年8月19日

株式会社ヤマノホールディングス
(東証スタンダード 7571)

目次

- I. 2027年3月期 1Q決算ハイライト
- II. 2027年3月期 1Q決算概要
- III. 通期業績予想と今後の成長戦略
- IV. Appendix

目次

I. 2027年3月期 1Q決算ハイライト

II. 2027年3月期 1Q決算概要

III. 通期業績予想と今後の成長戦略

IV. Appendix

2027年3月期 1Q決算ハイライト

売上高は3,520百万円(+2.1%)、EBITDAは△13百万円

前年の一過性要因を調整した比較では、**EBITDA + 62百万円、営業利益 + 42百万円改善**

(単位:百万円)	2026年1Q実績	2027年1Q実績	前年差
売上高	3,448	3,520	+72(+2.1%)
EBITDA	△22	△13	+8
営業利益	△58	△69	△11

- 前年1Q 一過性要因**
- 和装宝飾の納品サイクル早期化による一過性利益:**120百万円**
 - M&A取得関連費用:**67百万円**

一過性要因調整後(一過性利益の120百万円を控除し、M&A取得関連費用67百万円を加算)

	2026年1Q 調整後	2027年1Q実績	前年差
EBITDA	△75	△13	+62
営業利益	△111	△69	+42

EBITDA改善(+62百万円) = 営業利益改善(+42百万円) + 減価償却費等の増加(+20百万円)

目次

I. 2027年3月期 1Q決算ハイライト

II. 2027年3月期 1Q決算概要

III. 通期業績予想と今後の成長戦略

IV. Appendix

2027年3月期 1Q業績サマリー

- 前期取得3社が期初から寄与し、売上高は前年同期比**2.1%増加**
- EBITDAは△22→△13百万円に改善、営業利益は△58→△69百万円

(単位百万円)	2026/1Q (実績)	2027/1Q (実績)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	3,448	3,520	+72	+2.1%
EBITDA (EBITDAマージン)	△22 (△0.6%)	△13 (△0.4%)	+8 (+0.2pt)	—
営業利益 (利益率)	△58 (△1.7%)	△69 (△2.0%)	△11 (△0.3pt)	—
経常利益 (利益率)	△72 (△2.1%)	△84 (△2.4%)	△11 (△0.3pt)	—
四半期純利益 (利益率)	△78 (△2.3%)	△93 (△2.6%)	△14 (△0.3pt)	—

※ EBITDAは営業利益と減価償却費(のれんに係る償却費を含む)の合計額

1Q EBITDAの実体ベース比較

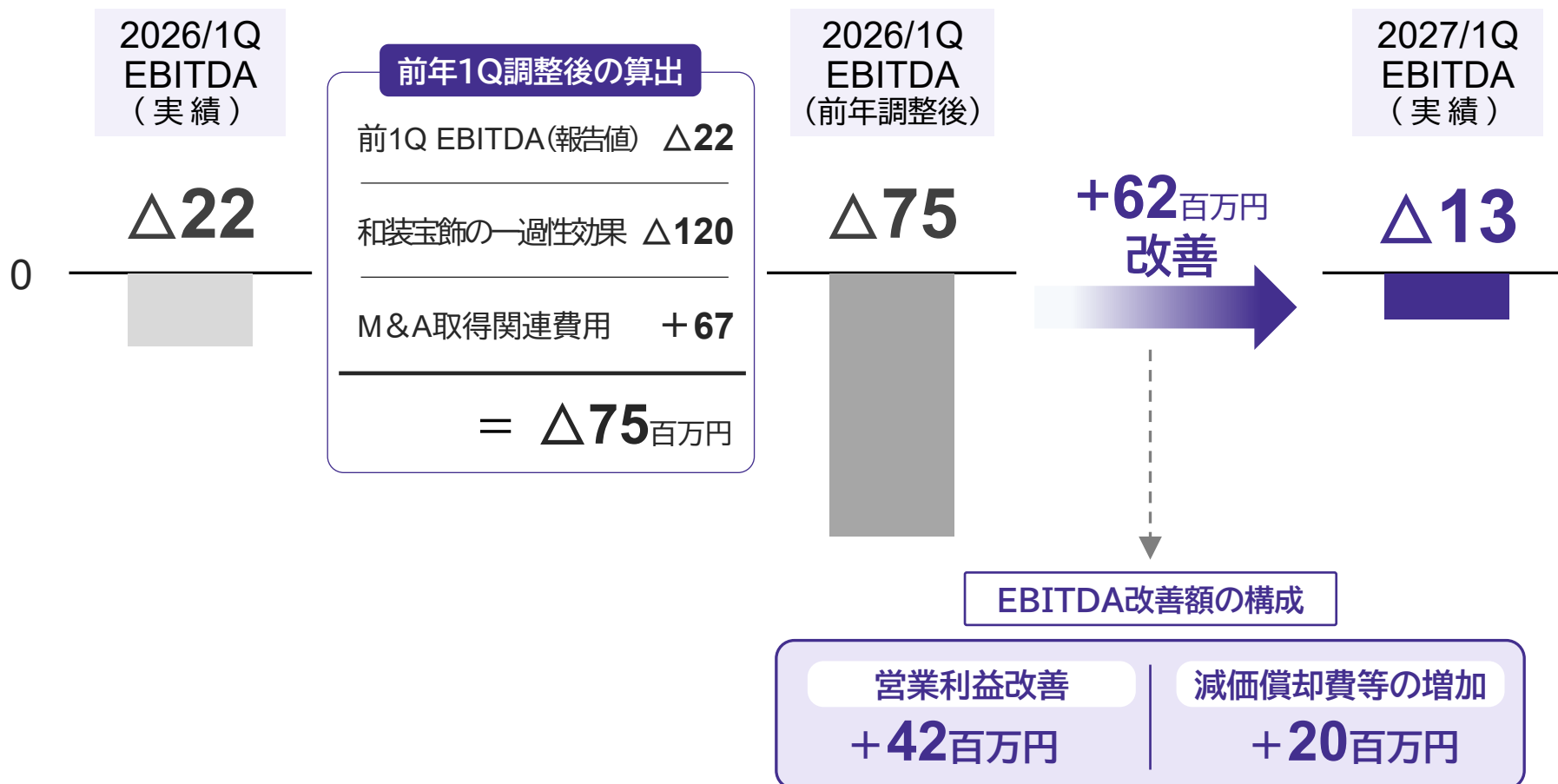


Yamano Holdings

- 前年1Qの一過性要因を調整した実体ベース比較では、
1Q EBITDAは $\Delta 75 \rightarrow \Delta 13$ 百万円 (+62百万円改善)

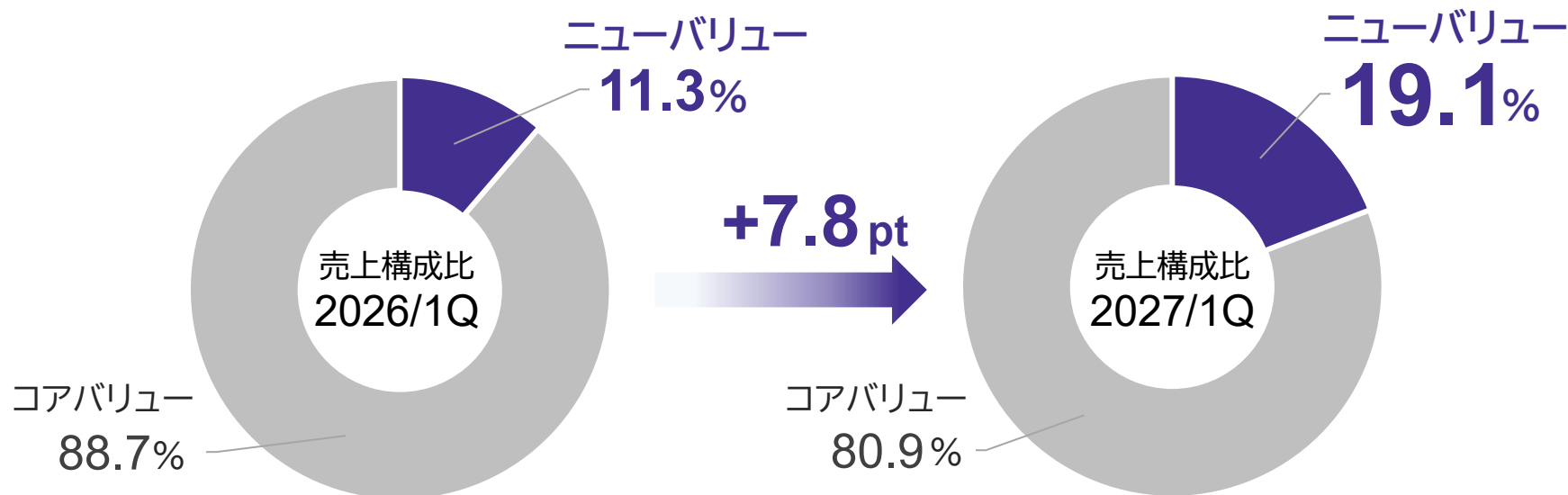
前年1Qの調整内容と改善額の構成

(単位:百万円)



■ニューバリューの売上構成比は**19.1%**へ上昇、増収・黒字転換により事業ポートフォリオの転換が進展

前期取得会社の期初寄与とリユース事業の伸長により、ニューバリューの構成比が上昇



ニューバリュー

売上高	391	➡	671	百万円
セグメント利益	△35	➡	15	百万円

+71.4% 増収・黒字転換

コアバリュー

売上高	3,056	➡	2,848	百万円
セグメント利益	68	➡	△84	百万円

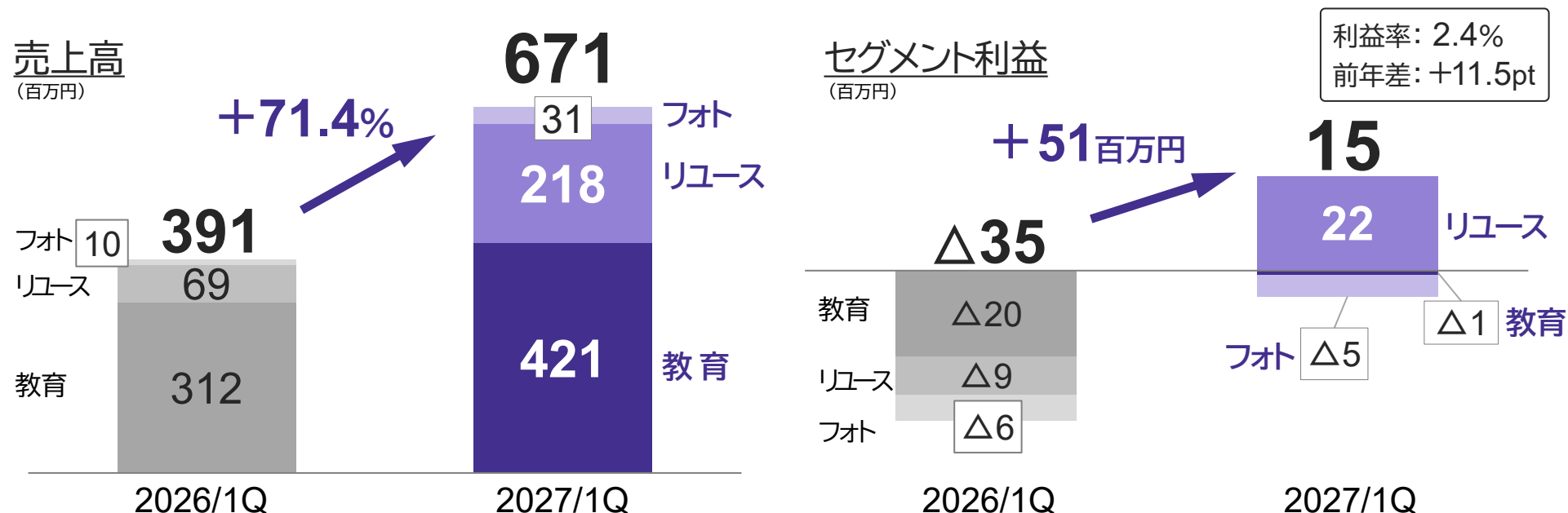
前年1Qの一過性効果の反動等が影響

セグメント別概況(ニューバリュー)



Yamano Holdings

■ 売上高は**391→671**百万円、リユースの利益貢献により、セグメント利益は**△35→15**百万円



教育 売上421／利益△1

- ・アークネット加入で**73教室・教育4社体制へ移行**
- ・**学童保育を開始**し、新たな教育領域への展開を検証

リユース 売上218／利益22

- ・ニューヨークジョーエクスチェンジの寄与により、**売上・利益とも拡大**
- ・OLD FLIPは店舗収益改善に加え、**国内外のBtoB販路を拡大**

フォト 売上31／利益△5

- ・連結対象期間の拡大により増収
- ・需要期に向け、SNS集客と顧客接点拡大を推進

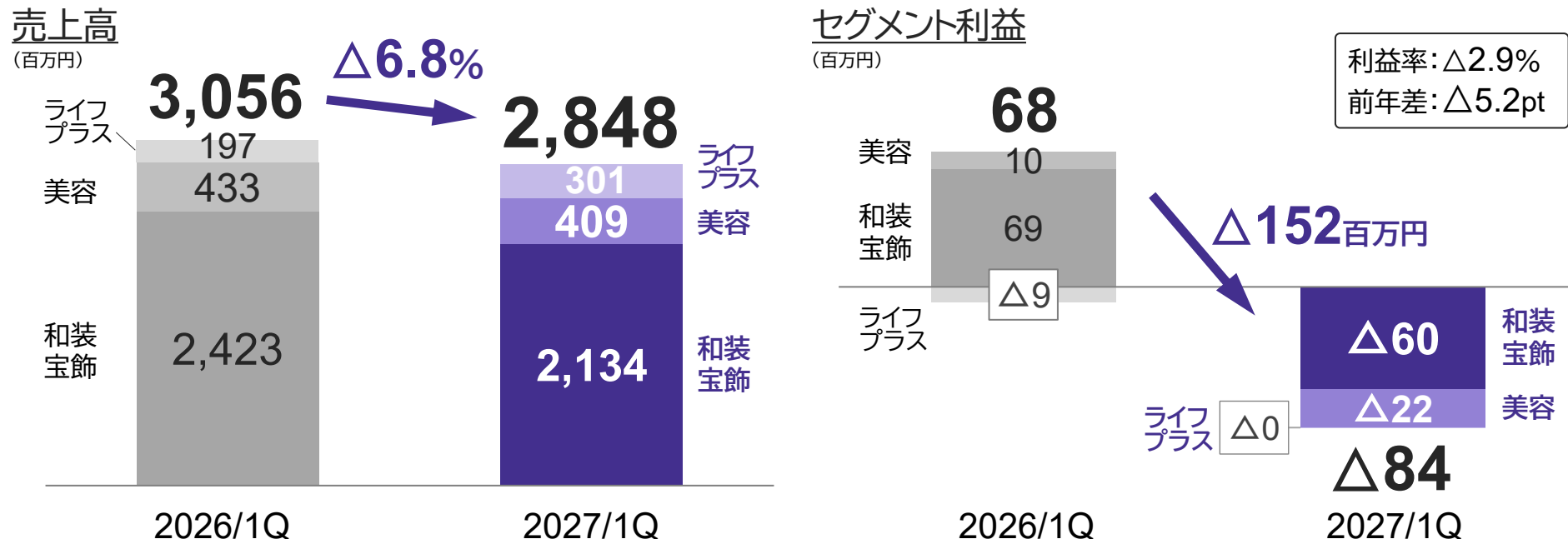
※ 各数値は表示単位未満を処理して表示。セグメント利益にのれん償却費は含まず(全社費に計上)

セグメント別概況(コアバリュー)



Yamano Holdings

■ セグメント利益は **68** → **△84** 百万円 (前年1Qの一過性要因調整後では、**前年差△32** 百万円)



- | | | |
|---------------|-----------------|---|
| 和装宝飾 | 売上2,134 / 利益△60 | <ul style="list-style-type: none"> 前年の納品サイクル早期化による一過性効果の反動で、大幅減収 店舗効率化を進め、1店舗当たり売上高は前年水準、粗利益率は改善 |
| 美容 | 売上409 / 利益△22 | <ul style="list-style-type: none"> 再来店促進・サービスメニュー充実、店舗運営効率化を継続 来店客数の回復を収益改善につなげる |
| ライフプラス | 売上301 / 利益△0 | <ul style="list-style-type: none"> 販路拡大施策の推進により売上大幅増 営業体制見直しとコスト管理強化等で収益性改善 |

※各数値は表示単位未満を処理して表示。「その他」(売上3百万円 / 利益△1百万円)を含む。のれん償却費は全社費に計上。

©2026 Yamano Holdings. All Rights Reserved

- 手元流動性24.8億円を確保しつつ、有利子負債を1.5億円削減
- 純資産は1.5億円減少、自己資本比率は16.4%。財務規律を継続

連結貸借対照表サマリー

(百万円)

財務状態のポイント

	2026/3末	2026/6末	増減
流動資産	6,180	6,036	△143
現金及び預金	2,841	2,484	△357
棚卸資産	1,138	1,288	+150
固定資産	2,232	2,184	△47
無形固定資産	775	734	△40
資産合計	8,413	8,221	△191
有利子負債※	3,205	3,059	△145
負債合計	6,920	6,875	△45
純資産	1,492	1,346	△146
自己資本比率	17.7%	16.4%	△1.3pt

資産 一定の手元流動性を維持

- ・現金及び預金は前期末から減少するも、24.8億円を確保
- ・棚卸資産は前期末比1.5億円増加
- ・無形固定資産は、のれん償却等により減少

負債 有利子負債は前期末から減少

- ・借入金返済により、有利子負債は前期末比1.5億円減少
- ・有利子負債残高は30.6億円
- ・借入水準と返済余力を継続的に管理

財務基盤 成長投資と財務基盤の強化

- ・四半期純損失の計上及び配当により、純資産は減少
- ・自己資本比率は前期末比1.3ポイント低下の16.4%
- ・利益の積み上げを通じ、継続的な成長投資に備える

※有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計

目次

I. 2027年3月期 第1四半期決算ハイライト

II. 2027年3月期 第1四半期決算概要

III. 通期業績予想と今後の成長戦略

IV. Appendix

2027年3月期 通期業績予想

■ 2026年5月15日に公表した通期業績予想から変更はございません。

- 2Qは前年同期の一過性利益80百万円の反動を見込む
- ニューバリュー: 需要期の利益積み上げと前期取得各社の貢献拡大
- コアバリュー: 和装宝飾、美容の収益改善、ライフプラスの拡販

(単位:百万円)

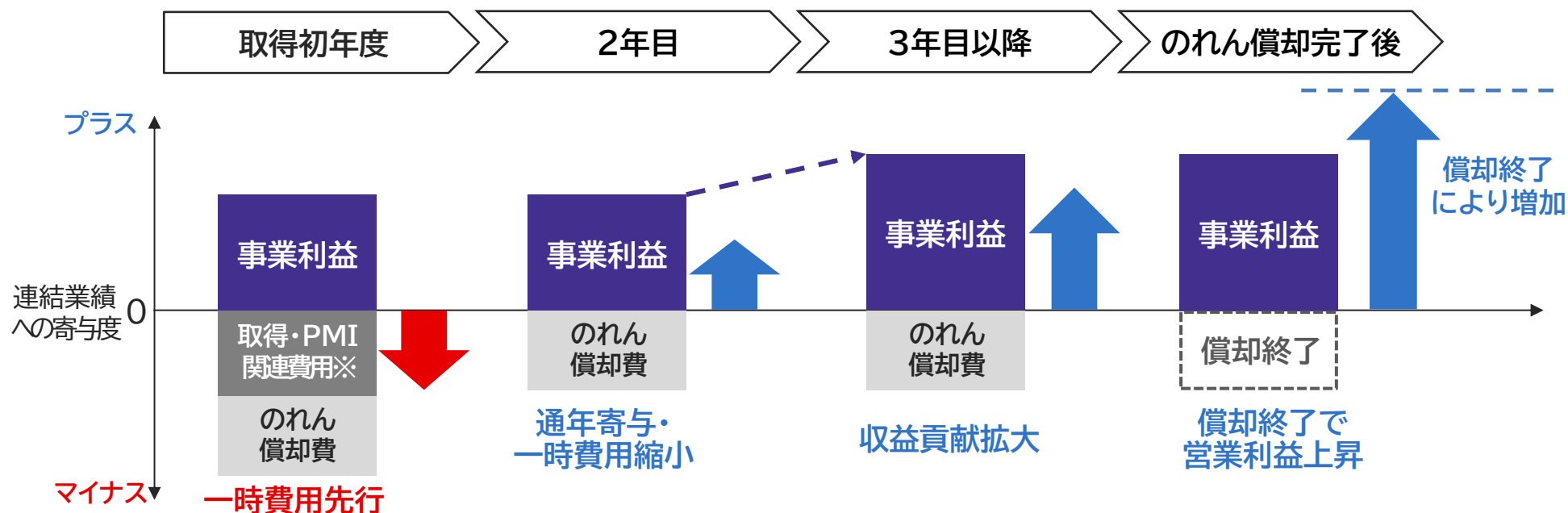
	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	増減額	増減比(%)
売上高	14,724	15,000	+276	+1.9
EBITDA※	593	528	△65	△10.8
EBITDAマージン	4.0%	3.5%	△0.5pt	—
営業利益	411	312	△99	△24.2
経常利益	360	250	△110	△30.7
当期純利益	207	128	△79	△38.4
EPS(円)	5.96円	3.67円	△2.29	—
1株配当(円)	1.5円	1.5円	—	—

※ EBITDAは営業利益と減価償却費(のれんに係る償却費含む)の合計額

M&A後の利益貢献プロセス

- 取得初年度は一時費用が先行し、2年目以降の利益貢献拡大を目指す
- PMIの推進と継続的なM&Aにより、連結営業利益への寄与を拡大

1案件の利益貢献プロセス(基本イメージ※)

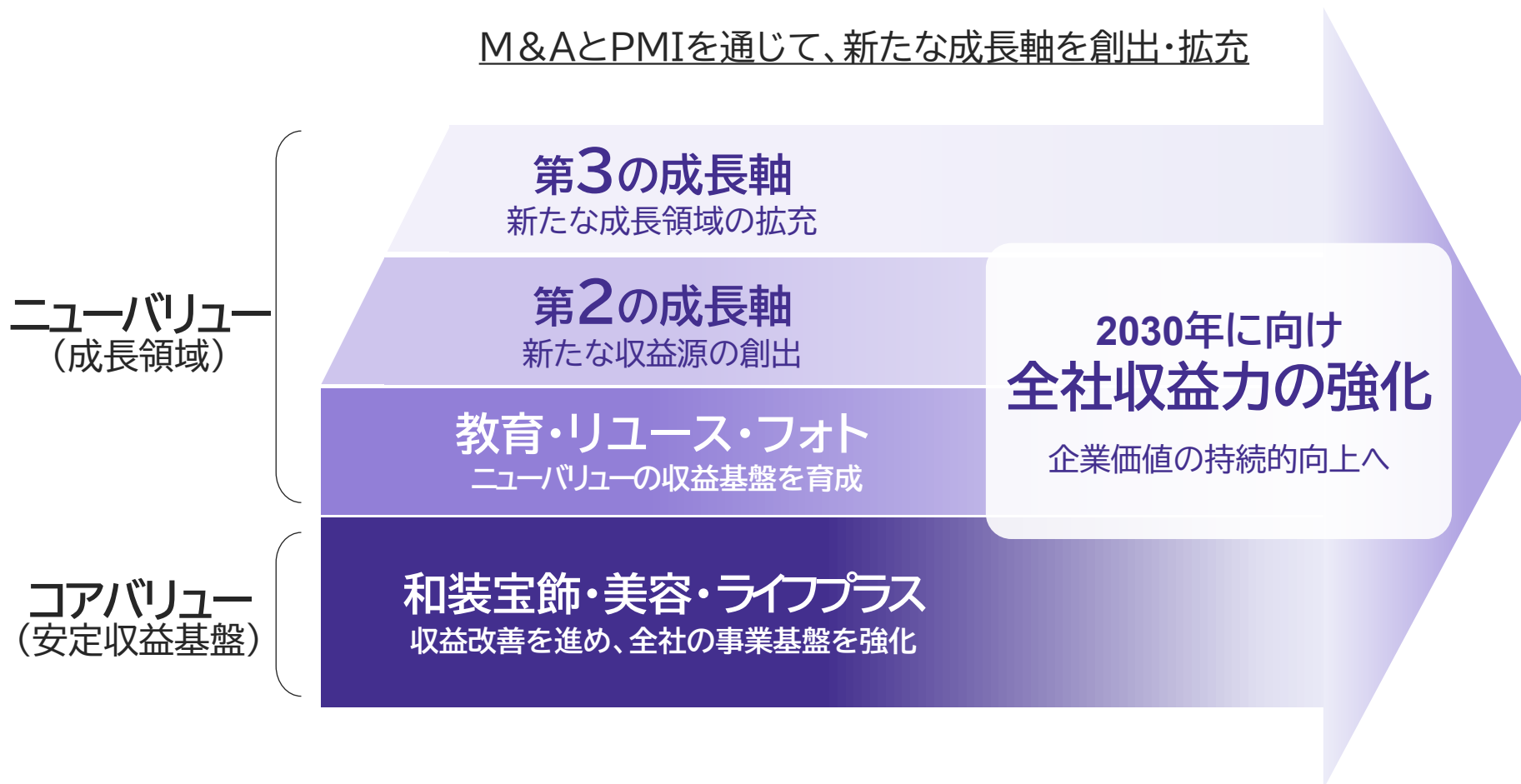


今後の展開

成長モデル の横展開

- 前期取得の3社は今期、連結業績への寄与拡大フェーズへ
- 同様のプロセスを新たなM&Aへ横展開し、成長加速を目指す

- コアバリューを基盤に、ニューバリューの育成と新たな成長軸の創出を進め、持続的成長を目指す



目次

- I. 2027年3月期 第1四半期決算ハイライト
- II. 2027年3月期 第1四半期決算概要
- III. 通期業績予想と今後の成長戦略
- IV. Appendix**

会社概要

商 号	株式会社ヤマノホールディングス
設 立	1987年2月20日
資 本 金	10,000千円
代表者名	代表取締役社長CEO 山野 義友
本 社	東京都渋谷区代々木1-30-7ヤマノ24ビル
株式上場	1997年11月 日本証券業協会 上場 (現 東証スタンダード市場)
従業員数	単体357名、連結566名（女性比率 約70%）
事業内容	・美容室、ネイルサロンの運営 ・和装品、宝飾品、毛皮、洋装品、寝装品、健康関連商品の販売 ・学習塾の運営 ・古着の買取/販売、フォト事業
主 要 グ ル ー プ 会 社	株式会社すずのき 株式会社マンツーマンアカデミー 東京ガイダンス株式会社 株式会社灯学舎 アークネット株式会社 株式会社OLD FLIP 株式会社ニューヨークジョーエクスチェンジ 株式会社薬師スタジオ 株式会社ヤマノセイビング

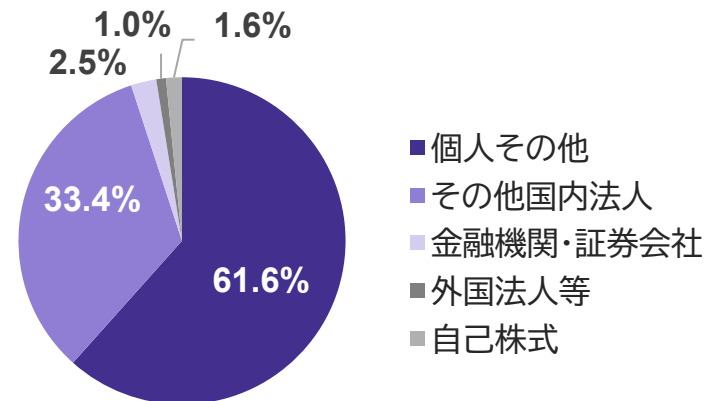
株式の状況

発行可能株式総数	88,000,000 株
発行済株式総数	35,830,058 株
株 主 数	7,652名

主要株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
(株)ヤマノネットワーク	4,838	13.7
山野義友	3,848	10.9
(株)ヤマノビューティメイトグループ	3,400	9.6
山野功子	2,118	6.0
山野美容商事株式会社	1,919	5.4

所有者別株式分布状況



■ コアバリューの収益基盤に、教育・リユース・フォトの成長領域を加えた6事業体制

グループ概要

グループ拠点数
275 拠点

グループ会社数
9 社

従業員数(パート、アルバイト等含む)
1,917 名

事業ポートフォリオ

ニューバリュー

中長期的に育成する成長領域

教育	73 教室
リユース	7 店舗
フォト	5 店舗

コアバリュー

安定的な収益基盤を構成する事業群

和装宝飾	93 店舗
美容	75 店舗(FC6店舗含む)
ライフプラス	22 拠点

事業・グループ体制

セグメント	事業	主な内容	事業会社
ニューバリュー	教育	学習塾の運営	(株)マンツーマンアカデミー、東京ガイダンス(株)、(株)灯学舎、アークネット(株)
	リユース	古着の買取・販売	(株)OLD FLIP、(株)ニューヨークジョーエクスチェンジ
	フォト	写真スタジオの運営	(株)薬師スタジオ
コアバリュー	和装宝飾	和装品、宝飾品、毛皮等の販売	(株)ヤマノホールディングス、(株)すずのき
	美容	美容室、ネイルサロンの運営	(株)ヤマノホールディングス
	ライフプラス	家電、洋装品、宝飾品、健康関連商品等の販売	(株)ヤマノホールディングス、(株)ヤマノセイビング

連結業績

(単位:百万円)

	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3 1Q
売上高	13,904	13,837	13,964	14,724	3,520
EBITDA	407	220	368	593	△13
EBITDAマージン(%)	2.9	1.6	2.6	4.0	△0.4
営業利益	297	100	256	411	△69
営業利益率(%)	2.1	0.7	1.8	2.8	△2.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	173	△28	41	207	△93

財務・資本効率

(単位:百万円)

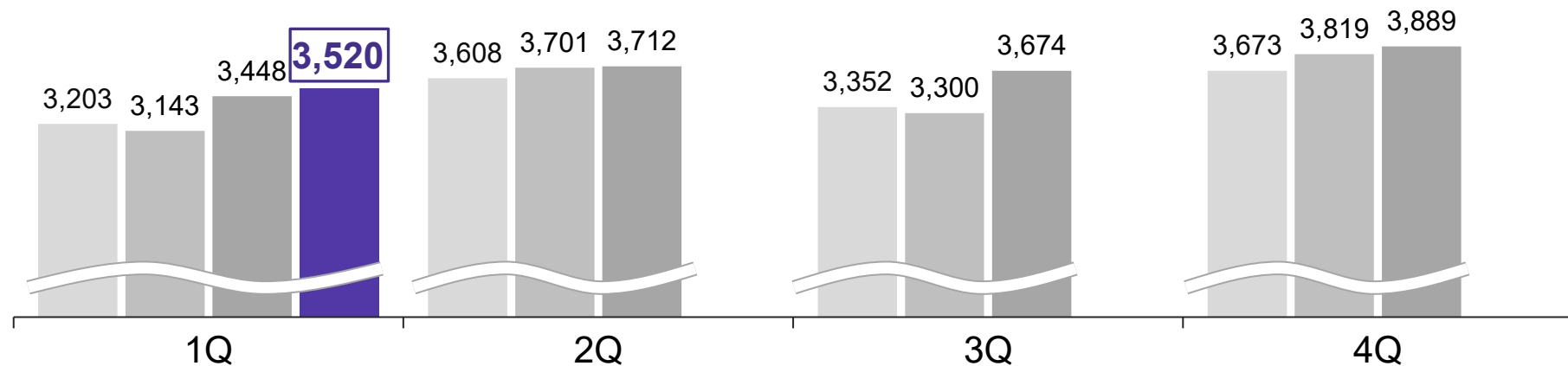
	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3 1Q
ROE(%)	13.9	△2.3	3.3	14.7	—
純資産	1,331	1,223	1,327	1,492	1,346
自己資本比率(%)	14.2	14.1	16.7	17.7	16.4
現金及び預金	3,319	2,732	2,438	2,841	2,484
有利子負債	3,841	3,215	2,684	3,205	3,059

※ ROEは年度実績のみ表示

※ 有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計

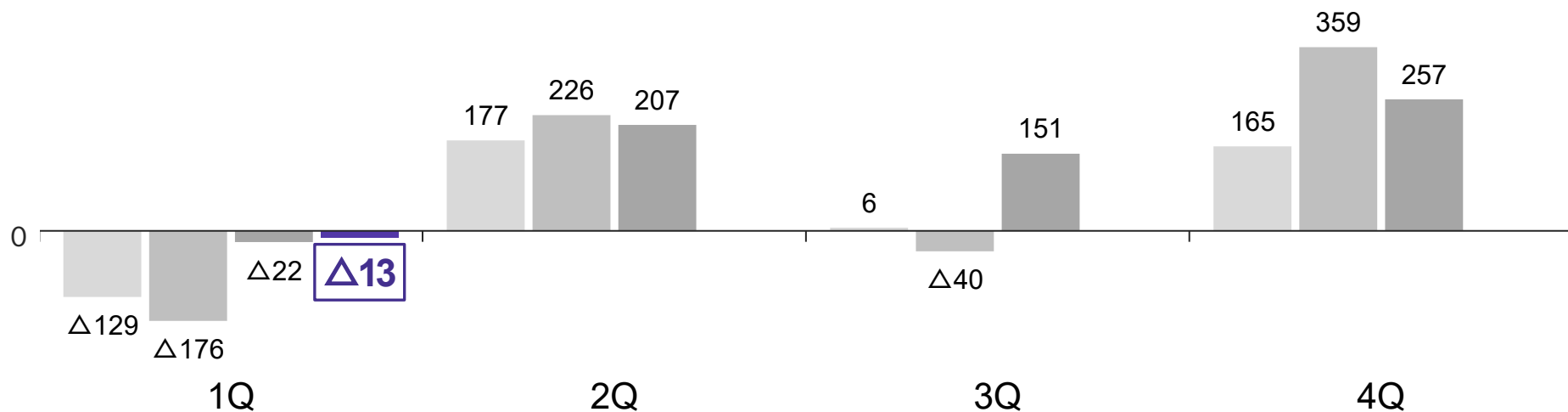
四半期売上高推移

(単位:百万円)

■ 2024/3 ■ 2025/3 ■ 2026/3 ■ **2027/3**


四半期EBITDA推移

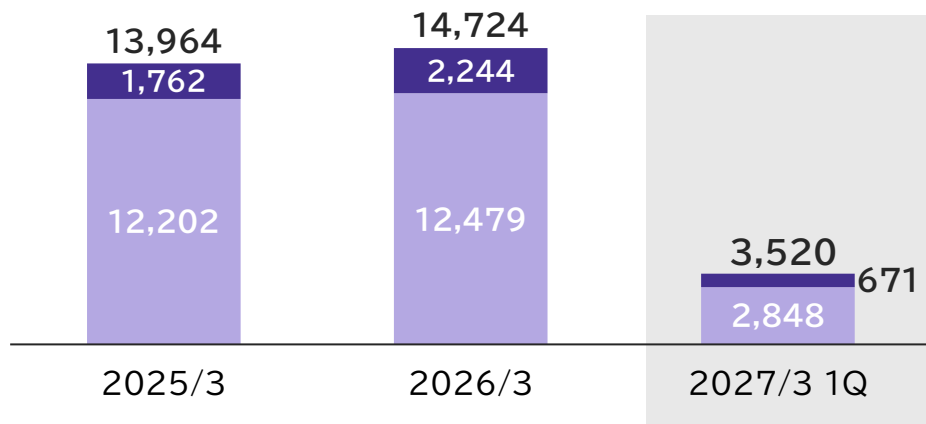
(単位:百万円)

■ 2024/3 ■ 2025/3 ■ 2026/3 ■ **2027/3**


セグメント別売上高推移

(単位:百万円)

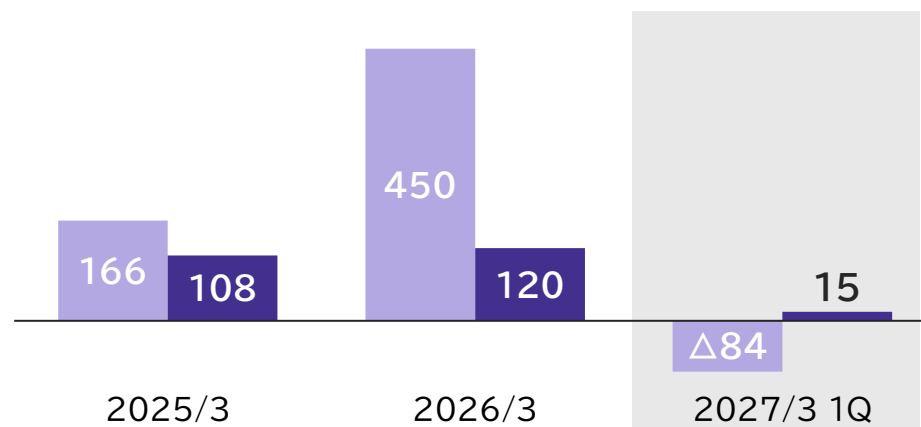
■コアバリュー ■ニューバリュー



セグメント利益推移

(単位:百万円)

■コアバリュー ■ニューバリュー



事業別業績推移

(単位:百万円)

		2025/3 通期		2026/3 通期		2027/3 1Q	
セグメント	事業	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
ニューバリュー	教育	1,453	128	1,462	83	421	△1
	リユース	309	△14	647	34	218	22
	フォト	—	—	133	3	31	△5
	合計	1,762	108	2,244	120	671	15
コアバリュー	和装宝飾	9,582	181	9,753	404	2,134	△60
	美容	1,776	25	1,741	48	409	△22
	ライフプラス	834	△31	975	3	301	△0
	その他	9	△8	8	△5	3	△1
	合計	12,202	166	12,479	450	2,848	△84
セグメント・事業合計		13,964	274	14,724	571	3,520	△68

※端数処理により内訳と合計に差異あり。合計は本社費用・のれん償却費等を除く。

事業変革の5ステージ



2000年以降の主な経営上の転換点

時期	主な転換点
2001～2007年	和装・宝飾・美容・アパレルなどへのM&A、事業譲受を積極化し、グループ経営を拡大
2008～2009年	第2創業を掲げ、グループ再編・統合を推進。2009年にグループ8社を吸収合併し、事業本部体制へ移行
2015～2017年	和装領域を拡充する一方、非中核事業の見直しを進め、事業ポートフォリオの再構築と財務体質改善を推進
2019～2023年	美容事業を再編するとともに、教育・リユース分野などのM&Aを推進し、成長領域の拡充を本格化
2024年～	中期経営計画「Tsunageru 2027」を開始。安定収益基盤と成長領域の二軸戦略により、持続的な成長へ

【当社グループの価値創造の軸】

生活に寄り添う価値を起点に、持続的な企業価値向上を目指す

企業理念

美道五原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）

心身の健康が外見の美しさを育み、外見の美しさが心身の穏やかさをもたらす。
創業者・山野愛子が生涯をかけて提唱した「美道五原則」は、五つの要素が
内面と外見の双方で調和し、人間本来の美しさを形づくるという理念です。

MISSION

『豊かさと彩りあるライフスタイルを創造し続けます』

VISION 2030

『従業員が投資したくなる会社へ』

ディスクレームー

本資料は、当社の業績概要、ならびに今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は注記のない限り開示時点の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ
経営企画部
Tel: 03-6743-9377
Mail: ir@yhc-net.com